

活動主題 「日本の伝統や文化を継承する意欲をもち、探究し続ける自分になる」

活動の価値

それぞれの国や地域の伝統や文化を学ぶことは、その国や地域への理解を深めるだけでなく、ときに親しみや愛着の情をもつことにもつながる。日本の文化としては、日本庭園や、日本建築、歌舞伎や能、和食や着物、またアニメやマンガなどのポップカルチャーなどが挙げられる。これらの文化は、欧米圏の文化と比べ特異な文化として、海外からの注目度も高い。日本の伝統としては、松下幸之助が3つの日本の伝統精神を挙げている。その3つとは、「衆知を集める」「主座を保つ」「和の精神」である。「衆知を集める」とは、何かを決めるとき広く意見を集め、調整する過程を重要視するということである。「主座を保つ」とは、主体性をもって、本来の自分をもって行動するということである。広く意見を集めたり、周囲の良い点を取り入れたりしながらも、自分に合う形にしていくところに、日本の伝統精神を見いだしている。「和の精神」とは、調和を求め、節度を求め、他人に配慮することである。日本文化の背景には、これら3つの日本の伝統精神が流れていると考えられる。

本活動は、日本の伝統と文化に対する関心を深め、伝統や文化をつくった先人たちの探究心や、生み出した精神を理解し、日本人として伝統や文化を継承したり発展させたりする実践意欲をもつことができるようにする歴史体験学習サイクルである。この活動を通して子どもたちは、日本の伝統や文化を学ぶことについての意義を見だし、先人の崇高さや偉大さについて考え、日本人としての自覚をもって日本の伝統や文化を継承し、発展させようとする意欲をもつことができる。また、道徳科の学習を通して学んだ日本文化や、その背景にある日本人の精神を、校外の豊かな自然に触れたり建造物を直接観察したりして、知識として学んだことを経験とつなげることができる大変意義深い活動である。

子どもの実態

本学級の子ども（〇名）は、4月に行われた教研式HUMAN（道徳性アセスメント）の結果では、「伝統文化、国愛」と「国際理解国際貢献」において、全国の傾向より望ましくない方向に有意差がみられた。事前アンケートでは、日本の伝統文化として、建築物や和食、着物など有形のものを挙げている子どもが、〇名いた。一方で、日本の伝統文化として、無形の精神的なものを挙げた子どもが〇名いた。伝統や文化をつくったり、守ったりするときに大切なこととして、伝統や文化を知ることと答えた子どもが〇名、先人の意志や思いを知ると答えた子どもが、〇名いた。さらに、日常で日本の伝統や文化を感じるがあるか、という質問には、〇名の子どもがあると答えた。感じる場面としては、海外と日本を比べている番組を見たときやお寺や神社に行ったとき、部活動で剣道をしているときなど幅広い回答が見られた。

以上のことから、子どもは、日常生活の様々な場面で、彼らなりに日本の伝統や文化とつながりを感じていることがわかった。また、その多くが有形の伝統や文化と結びついていることがわかった。一方で、伝統や文化をつくったり守ったりしてきた先人の思いや、無形の伝統精神については、意識していない子どもが多いことがわかった。したがって、有形の文化遺産の中から、先人の精神を学び、日本人としての自覚をもって、伝統や文化を継承したり発展させたりしようとする意欲をもつことができるように援助する必要があると考える。

活動の援助観

本活動では、日本の伝統と文化に対する関心を深め、伝統や文化をつくった先人たちの探究心や、自然との調和を理解し、日本人として伝統や文化を継承したり発展させたりして国家の発展を願う実践意欲をもつことができるようになることをねらいとする。そのために、次のような援助を行う。

- ・日本の伝統と文化に対する関心を深めることができるように、資料「日本人として」を活用する。
- ・探究にふさわしいテーマを決めることができるように、ブレインストーミングを行い、問いをもつ場を設定する。
- ・伝統や文化をつくった先人たちの探究心を理解することができるように、資料「運命の木-姫路城の大柱」を活用する。また、伝統や文化と自然との調和を理解することができるように、資料「嵐の中の三重の塔」を活用する。
- ・日本文化への理解が広がるように、探究したことを発表し合う場を設定する。
- ・日本人として伝統を継承したり発展させたりして国家の発展を願う実践意欲をもつことができるように、資料「異文化の人々と共に生きる」を活用する。

○ 子どもの学習目標

日本の伝統や文化に対する理解を深め、継承し発展させようとする意欲をもつことができる。

○ 教師の援助目標

日本の伝統と文化に対する関心を深め、伝統や文化をつくった先人たちの探究心や、自然との調和を理解し、日本人として伝統や文化を継承したり発展させたりして国家の発展を願う実践意欲をもつことができる。

活動計画（9時間＋α）

次	時	学習活動・内容	子どもの問いと思考	援助のねらい・内容・方法
本時 2 / 2	1 ②	1 歴史体験学習の意義と目的について考える。 (1)行先、日時、今後の日程を確認する。 総合的な学習の時間 ・昨年度の活動内容の確認 日本の伝統文化を探究しよう。 (2)資料「日本人として」を通して、日本の伝統や文化を学ぶことについて考える。 道徳科C-(17) ・日本の一員としての態度	どんな歴史体験学習にしていこうかな。 日本の伝統や文化のことを知って、伝えられるような人になりたいな。	日本の伝統と文化に対する関心を深めることができるようにする。 ・活動に見通しをもつことができるように、昨年度の活動や日程を確認する場を設定する。 ・日本の伝統と文化に対する関心を深めることができるように、資料「日本人として」を活用する。
	1 ②	2 探究テーマを設定し、下調べを行う。 (1) 探究テーマを決める。 総合的な学習の時間 ・京都と奈良の建築物について ・自然と歴史的建造物の関わり (2) 資料「運命の木-姫路城の大柱」を通して、伝統の継承と創造について考える。 道徳科A-(5) ・模倣ではない独自の創造 3 探究テーマを追究し、日本の伝統や文化についての理解を深める。 (1) 資料「嵐の中の三重の塔」を通して、人間の力を越えたものについて考える。 道徳科D-(21) ・人間の心の崇高さや偉大さ ・先人の努力や精神 —試行実践— ・歴史体験学習 特別活動：学校行事	どうして日本には、いろいろな伝統や文化が残っているのだろうか。 伝統や文化を受け継いで残した人たちの努力によって残っているんだな。 他にも日本の伝統や文化の特徴があるのかな。 自然と調和しながら残ってきたんだな。自然の力は、人間の力を越えているかもしれないな。実際に京都で見てみたいな。	伝統や文化をつくった先人たちの探究心や、自然との調和を理解することができるようにする。 ・探究にふさわしいテーマを決めることができるように、ブレインストーミングを行い、問いをもつ場を設定する。 ・伝統や文化をつくった先人たちの探究心を理解することができるように、資料「運命の木-姫路城の大柱」を活用する。 ・伝統や文化と自然との調和を理解することができるように、資料「嵐の中の三重の塔」を活用する。
三	1 ③ + α	4 試行実践を振り返り、日本の伝統や文化について考える。 (1) 探究テーマについて、まとめて発表する。 総合的な学習の時間 ・情報の整理、分析 ・気づきや発見、自分の考えの表現 (2)資料「異文化の人々と共に生きる」を通して、日本と世界の文化について考える。 道徳科C-(17)、C-(18) ・世界の中の日本人としての自覚 ・国家の発展を願う態度	自分は、日本の伝統や文化を継承して、発展させることができるのかな。 日本の伝統や文化について伝えることができたぞ。世界の中で、日本人として活動しつつ、日本がこれから発展するといいな。	日本人として伝統や文化を継承したり発展させたりして国家の発展を願う実践意欲をもつことができるようにする。 ・日本文化への理解が広がるように、探究したことを発表し合う場を設定する。 ・日本人として伝統を継承したり発展させたりして国家の発展を願う実践意欲をもつことができるように、資料「異文化の人々と共に生きる」を活用する。

本時 公開授業 2 第2学年〇組教室 第一次の1時(2/2)

本時のねらい

日本の伝統や文化を学ぶことが、日本人としての自覚につながることを理解し、自己を見つめ、日本の伝統や文化を学ぼうという実践への意欲をはぐくむことができるようにする。

本時の過程

学習活動・内容	発問	援助のねらい・内容・方法	形態	配時
<p>1 本時の学習の方向性を確認する。</p> <p>(1) 歴史体験学習で学びたいことについて出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築物の歴史。 ・まだ決まっていない。 <p>(2) めあてを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">日本の伝統や文化を学ぶことについて考えよう。</div>	<p>【補助発問1】</p> <p>歴史体験学習では、どんなことを学びたいと考えていますか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">本時の学習内容に関心をもつことができるようにする。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容に関心をもつことができるように、【補助発問1】を行う。 ・本時の学習内容を焦点化することができるように、めあてを確認する。 	一斉	5
<p>2 資料「日本人として」を通して、日本の伝統や文化を学ぶ意義について考える。</p> <p>(1) 資料を読む。</p> <p>(2) 主人公の心情を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問に答えることができない焦りやいらだち ・日本人としての自覚への気づき ・日本の伝統や文化を学ぶ事への意欲 <p>(3) 日本の伝統や文化を学ぶことについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の歴史や文化、良さについて知ること ・日本人としての意識の深まり ・自己がよって立つ基盤としての愛国心 	<p>【発問2】</p> <p>「なんで日本の文化がすばらしいと分かっているのに、詳しく知らないのか」と言われたとき、なおやはどんな気持ちだっただろう。</p> <p>【補助発問3】</p> <p>「よしっ!」とつぶやいたときは、どんな気持ちだっただろう。</p> <p>【発問4】(中心発問)</p> <p>日本の伝統や文化を学ぶと、どうなるのだろう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">日本の伝統や文化を学ぶことが、日本人としての自覚につながることを理解することができるようにする。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の内容を理解できるように、資料の範読を行う。 ・主人公に共感し、日本の伝統や文化を学ぶことの意義を理解することができるように、【発問2】及び【補助発問3】を行う。 ・日本の伝統や文化を学ぶことが、日本人としての自覚につながることを理解することができるように、【発問4】を行う。 	一斉／個／小集団／学級集団	35
<p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 本時の振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人としての意識を高めるためにも、これから歴史体験学習を通して、日本の歴史について知ってきたいと思った。 <p>(2) 教師の説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『翻訳できない世界のことば』木漏れ日、侘び寂び 	<p>【発問5】</p> <p>今日の学習を通して、考えたことや感じたことを振り返りましょう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自己を見つめ、日本の伝統や文化を学ぼうという実践への意欲をはぐくむことができるようにする。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・自己を見つめ、日本の伝統や文化を学ぼうという実践への意欲をはぐくむことができるように、【発問5】を行う。 ・日本の伝統や文化について、視点を広げることができるように、教師による説話を行う。 	個／小集団	10

本活動にかかわる価値内容について

本活動は、日本の伝統と文化に対する関心を深め、伝統や文化をつくった先人たちの探究心や、自然との調和を理解し、日本人として伝統や文化を継承したり発展させたりする実践意欲をもつことができるようにすることをねらいとする。そこで本活動に関わる道徳科の内容項目として、A—(5)、C—(17)、C—(18)、D—(21)を設定する。また、総合的な学習の時間の探究課題として、伝統文化を設定する。第一次では、まず総合的な学習の時間を設定し、探究課題を設定し、解決に向けた見通しをもつことができるようにする。次に、C—(17)を設定し、日本の伝統や文化を知ることが、日本人としての自覚につながることを理解できるようにする。第二次では、まず総合的な学習の時間を設定し、自身の探究テーマを設定することをねらいとする。次に、A—(5)を設定し、伝統や文化をつくったり受け継いできたりしてきた先人たちの探究心を理解することができるようにする。さらに、D—(21)を設定し、伝統や文化と自然との調和について理解し、人の力を越えた自然の力を理解することをねらいとする。その後、試行実践の場として歴史体験学習を行う。第三次では、探究テーマを発表し合う場を設定し、事象や情報を整理し、わかりやすくまとめ、日本の伝統や文化への理解を広げることができるようにする。そして、C—(18)を設定し、日本人として伝統を継承したり発展させたりして国家の発展を願う実践意欲をもつことができるようにする。

本時内容項目の分析

内容項目 C—(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度

日本人としての自覚をもって国を愛すること。

「日本人としての自覚をもつ」とは、グローバル化が進展する社会で、自分とは異なる立場や感じ方、考え方に気づくために、自分の姿を客観的に理解することができる日本人としての自覚を形成することである。日本人としての自覚とは、偏狭で排他的な自国賛美ではなく、国際社会の中での日本人としての立場や役割をわきまえることである。「国を愛する」とは、歴史的に形成されてきた国民、国土、伝統、文化などからなる、歴史的・文化的な共同体としての国を、国家及び社会の形成者として、その発展を願い、それに寄与しようとすることである。すなわち、日本の伝統や文化に対する関心や理解を深め、それを尊重し、継承したり発展させたりする態度をはぐくむことが求められる。ここでいう「伝統」とは、長い歴史を通じて培い、伝えられてきた信仰・風習・制度・思想・学問・芸術などであり、これらの中心をなす精神的な在り方のことである。また「文化」とは、人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果を指し、生活形成の様式と内容を含んでいる。

以上のことから、「日本人としての自覚をもって国を愛すること」の実現には、日本の伝統や文化を学ぶ意義を子ども自身が見だし、日本の伝統や文化について知ることが、国際社会の中での日本人としての立場や役割を果たすことにつながるということを理解する必要があると考える。

子どもの実態と本時のねらい・手だて

前時までに子どもは、総合的な学習の時間で、歴史体験学習の課題を設定し、解決に向けた見通しを立てている。また、本学級の子どもは、日本の伝統や文化を日常生活の中で感じている子どもも多い。一方で、伝統や文化を継承したり発展させたりすることについては、具体的に自分事として捉えることができていない子どもが多い。これは、日本の伝統や文化を学ぶ意義についての理解が不十分だからだと考えられる。そこで本時は、日本の伝統や文化を学ぶことが、日本人としての自覚につながることを理解し、自己を見つめ、日本の伝統や文化を学ぼうという実践への意欲をはぐくむことができるようにすることをねらいとする。そのために、次のような手だてを行う。

- ・本時の学習内容に関心をもつことができるように、【補助発問1】を行う。
- ・本時の学習内容を焦点化することができるように、めあてを設定する。
- ・資料の内容を理解することができるように、資料の範読を行う。
- ・主人公に共感し、日本の伝統や文化を学ぶことの意義を理解することができるように、【発問2】及び【補助発問3】を行う。
- ・日本の伝統や文化を学ぶことが、日本人としての自覚につながることを理解することができるように、【発問4】を行う。
- ・自己を見つめ、日本の伝統や文化を学ぼうという実践への意欲をはぐくむことができるように、【発問5】を行う。
- ・日本の伝統や文化について、視点を広げることができるように、教師による説話を行う。

- 1 資料名 「日本人として」 (「輝け 未来2」学校図書)
- 2 内容項目 C-17 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
- 3 資料の分析

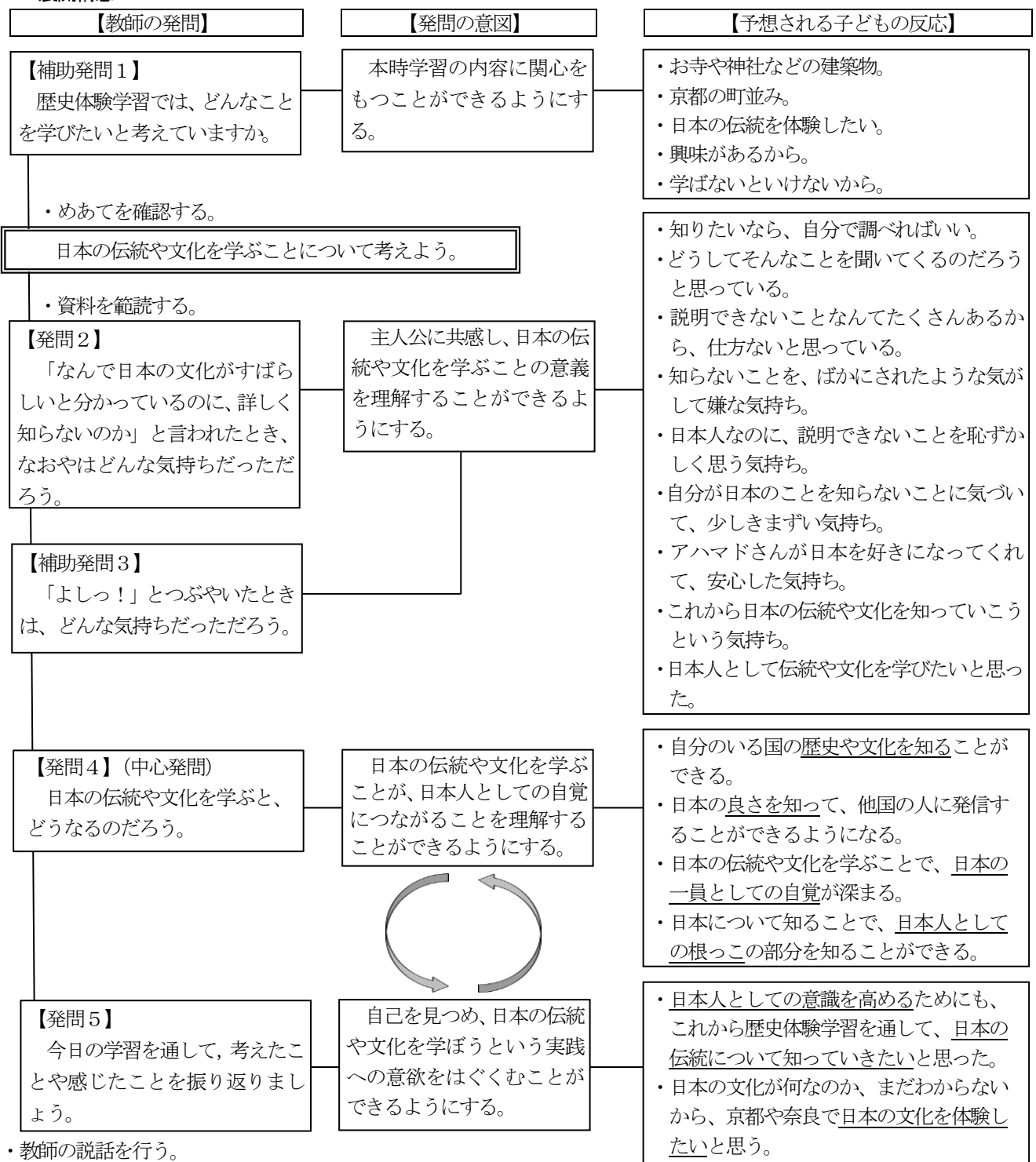
本資料は、中学1年生のなおやがトルコからの留学生であるアハマドさんとの関わりを通して、日本の伝統や文化について考え始めるという内容である。アハマドさんと東京観光に行ったなおやは、アハマドさんから東京スカイツリーの高さの由来である「武蔵」の意味や、浅草寺にお参りする時の手水の作法を質問され、うまく答えることができない。東京観光の帰り道に、アハマドさんから日本人の伝統を重んじる精神を学びたくて、日本に来たことを聞くが、なおやには日本人の精神が分からない。そしてホームステイの期間が終わり、帰国するアハマドさんから、日本のことが好きになったという感想を聞いて、安心し、2人は握手をして別れた。

この資料を通して、日本の伝統や文化を学ぶことについて考えることで、子どもは歴史的に形成されてきた伝統や文化を知ることが、日本の一員としての自覚につながることを理解し、日本の伝統や文化を学ぶ意義について、問いを紡ぐことができるようになる。

4 本時のねらい

日本の伝統や文化を学ぶことが、日本人としての自覚につながることを理解し、自己を見つめ、日本の伝統や文化を学ぼうという実践への意欲をはぐくむことができるようにする。

5 展開構想



・教師の説話を行う。